

### 退職のご挨拶

上田一義

“朝、コーヒーを淹れ、ゆっくりと朝食をとる。今日は天気がいいので、朝の内、残っている論文でも書き、午後からは散歩に出てみようか〜。”という一日が、私が思い描いていた退職後の生活です。この三月末で横浜国立大学を定年退職しました。それから三か月、思い描いていた生活とは異なり、結構、忙しく過ごしています。頼まれている仕事、本学や他大学との共同研究、非常勤講師などの仕事です。秋学期からは、本学でも「化学熱力学B」の非常勤講師を、今年度限りですが、させて頂く予定となっています。ただ、忙しいといっても、内容は現役時代と異なり、運営に関する会議などありませんので、気持ち的には自由に過ごしています。

私は昭和59年に広島大学で理学博士の学位を頂き、姫路にあるダイセル化学工業株式会社総合研究所に勤務しました。そこでセルロースに出会い、石油を原料とする合成高分子にはない、原料である木材等に起因する性状の複雑さ、悪く言えば、いい加減さが気に入って、以来、今日まで、セルロースを研究の中心にしてきました。その後、平成2年4月から広島大学理学部化学科に助手として移り、ここでは、計算科学に出会いました。そこで、セルロースと計算科学を合体した研究を始め、それに関連した研究で、一年数か月間、米国コーネル大学へ留学し、帰国後、平成9年に横浜国立大学工学部に助教授として着任させて頂きました。それから今年三月まで、長い間大変お世話になりました。

横浜国大では、中山春夫教授の研究室でお世話になりました。中山先生はクラスレートハイドレートを研究のテーマとされていたので、私も計算科学をこのテーマに適用することを行ってみました。これが学内の先生方と共同研究を進める第一歩となり、その後、内藤晶先生や横山幸男先生を始め、多くの



先生方と共同研究を楽しませて頂き、多くの共著論文を書かせて頂いたことは大変感謝しております。計算科学は共同研究に大変適していたようです。また、主テーマであるセルロースに関しては、念願であった溶解自由エネルギーを計算して、セルロースの溶解性を評価することが出来、これで一応の研究の区切りらしきことが出来た（勝手に）と満足しています。

国大化学会では、コース長のとき、副会長をさせて頂きました。おかげで本学の卒業生ではありませんが、会の運営にも参画させて頂き国大化学会に大いなる親しみを持たせて頂きました。参加していると、幹事の皆様が、この会が在学生や卒業生の役に立つように大変努力されていることが良くわかります。2年次、3年次の歓迎会、卒業式での表彰や博士進学支援、卒業生を招いての講演会、学生の学会発表支援など、（その他にもあると思いますが、すみません）いろいろな試みをされています。同窓会がしっかりしているというのは大学にとっても、またそれは卒業生にとっても自分たちの足場がしっかりしているという支えになると思います。積極的に利用され、国大化学会が益々発展されることを願っています。